

平成25年度

宇都宮市教育委員会
点検・評価報告書

平成25年8月
宇都宮市教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 教育委員会評価の概要	
1 評価の趣旨	2
2 評価のしくみ	2
3 評価対象・実施期間	3
4 評価の方法	3
5 評価委員	3
第2章 昨年度評価委員の所見への対応状況	
1 教育委員会活動状況について	4
2 教育委員会施策・事業全般について	5
3 評価報告書の作成について	5
第3章 教育委員会の活動状況の評価	
1 教育委員会の組織	6
2 教育委員の構成	7
3 教育委員会の活動状況	7
4 教育委員会の活動状況の評価	14
第4章 教育委員会施策全般の評価	
1 生涯にわたる学習活動を促進する	16
2 信頼される学校教育を推進する	18
3 個性的な市民文化・都市文化を創造する	24
4 生涯にわたるスポーツ活動を促進する	26
第5章 評価委員による所見	27
おわりに	32
○参考資料	
平成24年度 教育委員会審議案件等一覧	33
教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧	38
一般会計予算と教育予算	39

はじめに

教育委員会制度は、首長からの独立、合議制、レイマンコントロールにより、政治的中立性、継続性・安定性の確保、地域住民の意向の反映を図るものとして、戦後わが国に導入され、地方教育行政の基本的な制度として定着しています。

また、地方分権の進展や教育に関するニーズの高まり、委員会の担任業務の多様性や専門性などから制度創設時から現在に至るまで、随時、制度改正を重ねてきました。

このような中、平成18年12月の教育基本法の改正及び平成19年3月の中央教育審議会の答申等を踏まえ、平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、平成20年4月から施行されました。

この改正法の大きな柱の一つであります「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、効果的な教育行政に資するとともに住民への説明責任を果たすため、教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うことが義務付けられたところであります。

本市教育委員会においては、毎月、教育委員会会議を開催し、教育行政に係る基本方針や計画策定などの重要事項について審議するとともに、教育施策に関する研修、教育施設への視察等を行うなど、事務局と連携しながら、積極的な活動を通じて教育行政の推進に努めてまいりました。

さらには、これまで実施した点検・評価を生かしながら、教育委員会のより一層の機能の活性化と充実を図るとともに、二役（市長・副市長）や議会との意見交換会や、教職員や市民との教育懇談会を開催するなど、様々な関係組織と連携しながら、開かれた教育委員会の推進に取り組んでいるところであります。

本報告書では、今後のさらなる効果的な教育行政の推進に資するために、外部評価委員のご意見等をいただきながら、平成24年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果を報告いたします。

平成25年8月

宇都宮市教育委員会

第1章 教育委員会評価の概要

1 評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、宇都宮市教育委員会が実施する教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋（平成20年4月施行）

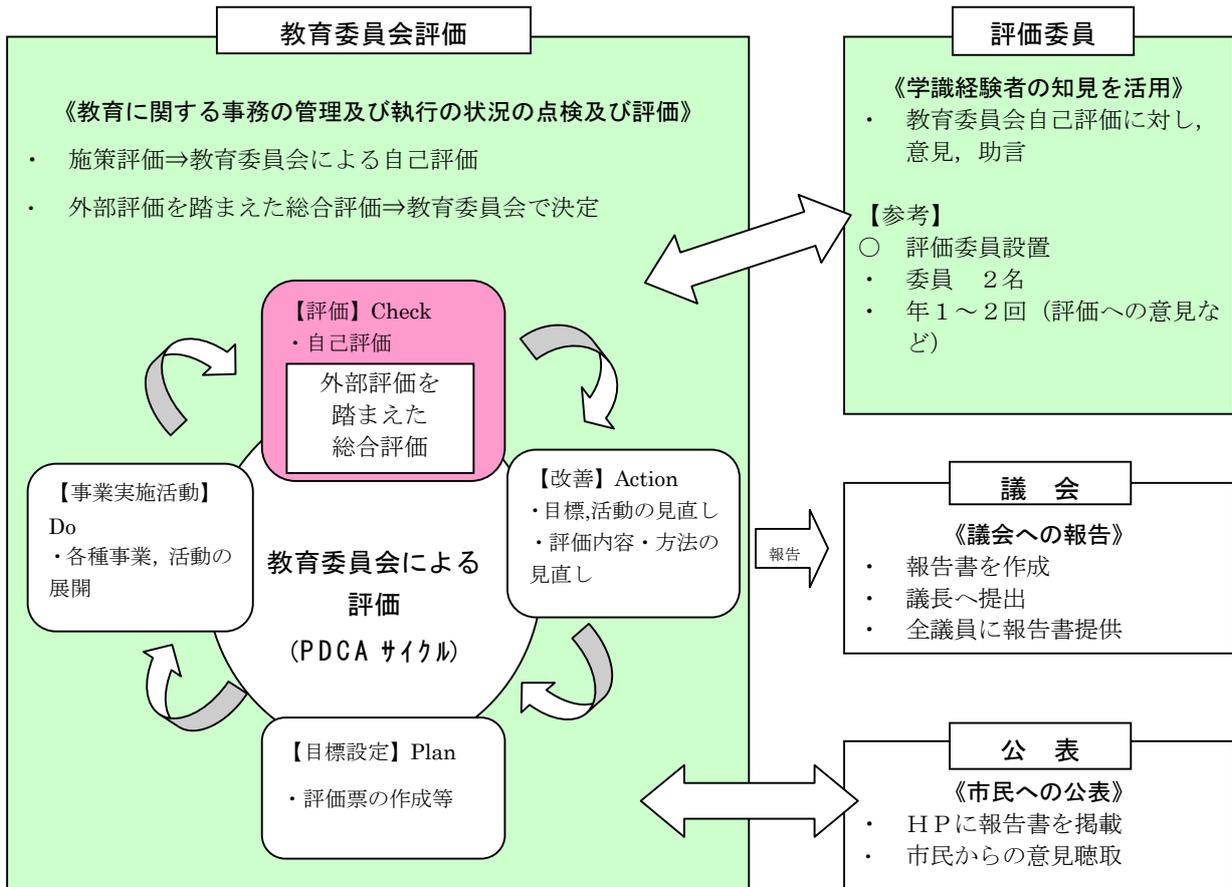
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務（同上第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価のしくみ

教育委員会により自己評価を実施し、外部評価委員の意見を踏まえ総合評価を行う。



3 評価対象・実施期間

(1) 対象

平成24年度実施の教育行政全般とする。

- ◆教育委員会活動状況
- ◆教育委員会施策全般（行政評価を活用）

※市立小中学校において、教育機関としての評価を実施するものは除く

(2) 実施期間

平成25年4月～8月

4 評価の方法

ア 自己評価

教育委員会活動状況及び教育委員会施策全般について、各主管課及び教育委員会による自己評価を実施

イ 評価委員からの意見の聴取

教育委員会評価委員（学識経験者）から意見を聴取
自己評価に対する意見，助言

ウ 総合評価

自己評価に対する評価委員からの意見等を踏まえ，総合的な評価を行い，次年度への課題，今後の方向性を示す。

5 評価委員（学識経験者）

本市教育行政に大きく携わり，専門的かつ広い観点からの知見を期して，学校教育，社会教育全般における識見の高い方からご意見をいただいた。

氏名	団体・役職名
木村 寛	宇都宮大学名誉教授 作新学院大学特任教授
山田 葉子	市スポーツ推進委員 陽東中学校魅力ある学校づくり地域協議会 副会長兼地域コーディネーター

第2章 昨年度評価委員の所見への対応状況

平成24年度の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価における学識経験者（木村寛氏、山田葉子氏）からいただいた改善点や今後の方向性などの所見等について、今年度の宇都宮市教育委員会の対応状況などを以下のとおりまとめた。

1 教育委員会活動状況について

評価・意見	対応・検討状況
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の会議について、協議の件数が減り、報告の件数が増えている理由を明確にすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施状況を踏まえながら、昨年度と比較した付議案件の増減理由を評価報告書に記載した。
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員が教育にどのような期待をしているのかを、市民に対して発信する企画が増えることを期待する。 広報活動については、専門用語ではなく市民に分かりやすい表現を心がけ、またホームページの活用では、より多くの市民に発信することを意識し、写真などを取り入れたレイアウトの工夫や情報を随時更新し、より迅速な情報提供とアクセス数などの実績データを検証し、フィードバックすることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員の意見や考え、また教育委員の活動などについては、広く市民に発信できるよう、市ホームページや教育委員会広報紙「宮っこだより」などを活用し、迅速な情報発信を行うとともに、誰が見ても分かりやすい表現、レイアウトの工夫を行うなど、広報機能の充実を図っていく。
<ul style="list-style-type: none"> 視察・研修・意見交換や懇談会などで得たことが、どのように施策等に反映されているかが不明確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 視察や研修、意見交換会において教育委員の意見や考えを整理し、それをフィードバックできるような仕組みを検討するとともに、教育委員会会議や委員協議会、事務局との意見交換の場など、教育委員が自由に発言できる機会を設け、教育委員の考えや意見を取り入れる体制を整えていく。
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員と事務局の負担を増やさず、より多くの市民や教育現場の声、実態をつかむ工夫をしてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員が視察という形ではなく、学校現場などに気軽に訪れることができるよう、教育委員の顔を広げていく活動を実施していく。
<ul style="list-style-type: none"> 教育委員と事務局職員の関係は、連携を密として目的に向かう仲間という側面が大切ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員と事務局職員との懇談会（委員 de サロン）を開催するなど、積極的に意見交換を行いながら、連携を密にしていく。

2 教育委員会施策・事業全般について

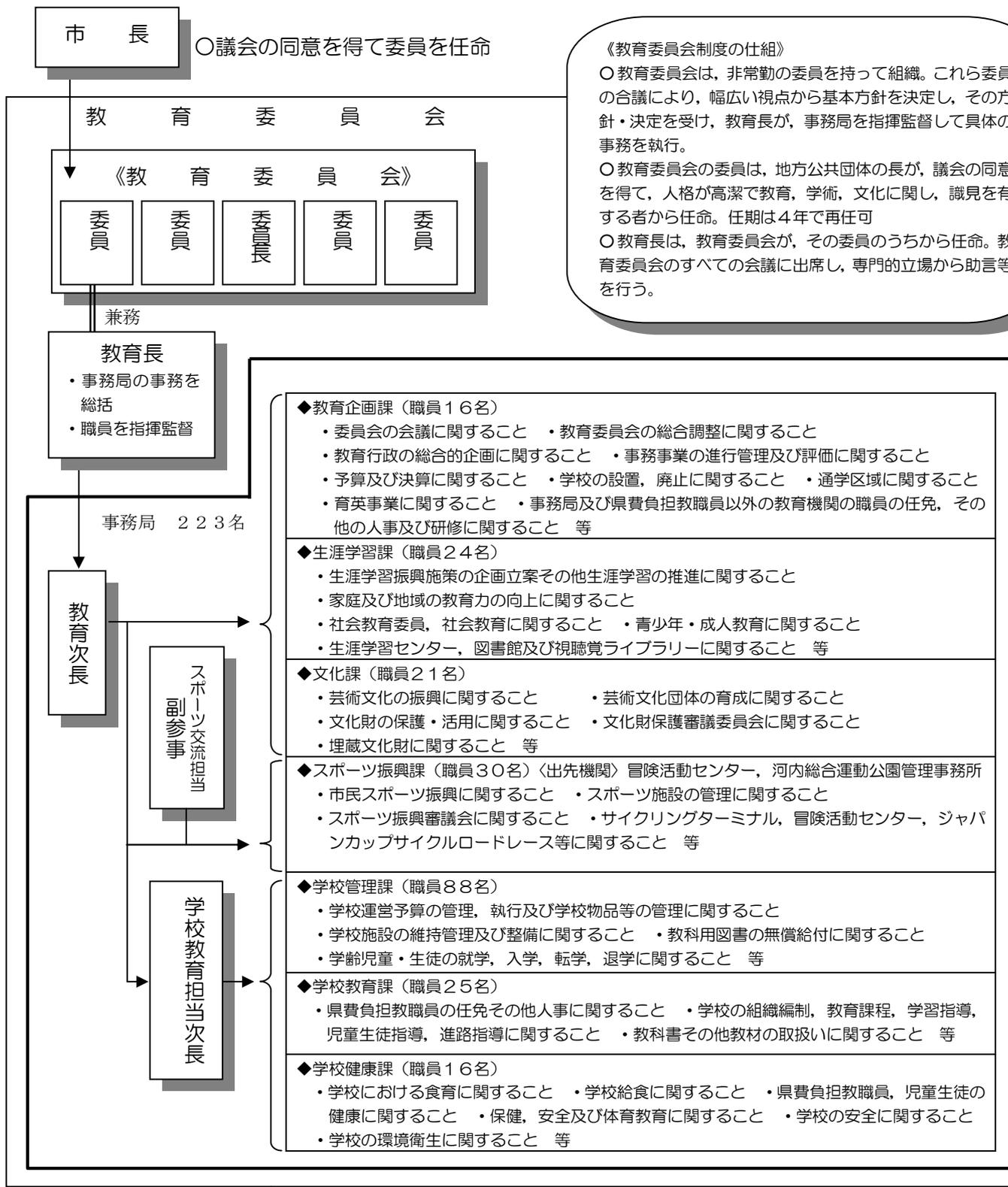
評価・意見	対応・検討状況
<ul style="list-style-type: none"> 企画・実施している事業において、企画する側だけではなく、当事者の意見・感想など、生の声を資料とする自己評価が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会施策・事業全般の評価については、より大きな視点での評価となるよう、評価の方法について見直しを実施した。
<ul style="list-style-type: none"> 新規事業について、その事業の意義や意味をより明確にする点で、事業が取り入れられた背景や目的についてより詳しく説明があると良い。 	
<ul style="list-style-type: none"> いくつかの施策・事業においては数値的な向上を目指すのではなく、内容の充実を目指す改善の方向を探る必要を感じる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 施策カルテには施策にかかる費用の記述がなく費用対効果の観点から評価するには不足である。 	

3 評価報告書の作成について

評価・意見	対応・検討状況
<ul style="list-style-type: none"> 評価結果を市民に公表するならば、専門的な用語を使わなければならないときには、その意味の説明が欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門用語等については、注釈などを入れるなど、分かりやすい表現にした。
<ul style="list-style-type: none"> 評価報告書を作成する労力を考えると、作成作業を軽減することを考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会施策全般については、行政評価で実施している施策カルテを活用して評価した。
<ul style="list-style-type: none"> 前年度の所見に記載された事柄が、今年度の活動などの中のどこに反映されたかを会議で報告するなど、分かるようにすべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会評価委員から得た所見について、対応・検討状況としてまとめた。

第3章 教育委員会の活動状況の評価

1 教育委員会の組織



《教育委員会制度の仕組み》

○教育委員会は、非常勤の委員を持って組織。これら委員の合議により、幅広い視点から基本方針を決定し、その方針・決定を受け、教育長が、事務局を指揮監督して具体的な事務を執行。

○教育委員会の委員は、地方公共団体の長が、議会の同意を得て、人格が高潔で教育、学術、文化に関し、識見を有する者から任命。任期は4年で再任可

○教育長は、教育委員会が、その委員のうちから任命。教育委員会のすべての会議に出席し、専門的立場から助言等を行う。

学校その他の機関を所管

《教育機関》

小中学校 (93)	教育センター (1)	上河内学校給食センター (1)	図書館 (5)	生涯学習センター (18)	視聴覚ライブラリー (1)	美術館 (1)
--------------	---------------	--------------------	------------	------------------	------------------	------------

2 教育委員の構成（平成25年3月末時点）

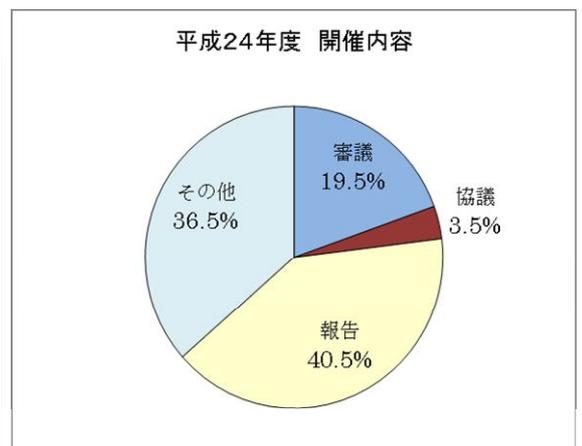
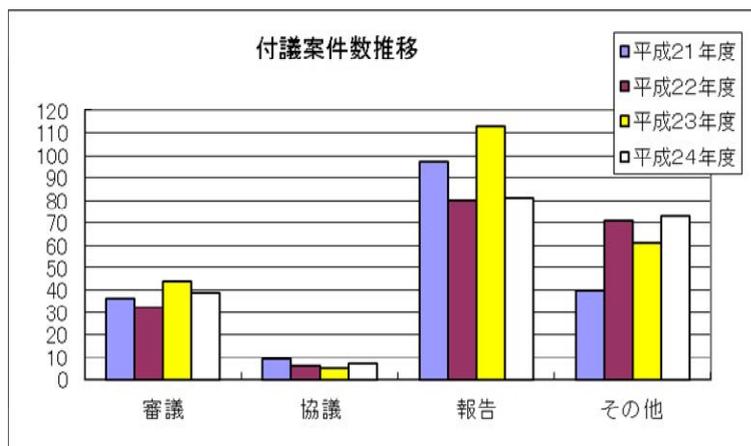
職・氏名	委員長 藤原 宏史	委員 大場 文恵	委員 松江 比佐子	委員 若度 哲久	教育長 水越 久夫
任期	H17.10.1～ H25.9.30 2期(7.5年)	H19.10.1～ H27.9.30 2期(5.5年)	H22.10.1～ H26.9.30 1期(2.5年)	H24.10.1～ H28.9.30 1期(0.5年)	H24.4.1～ H28.9.30 2期(1年)
職業・分野	会社役員 (経済)	音大准教授 (文化)	自営業 (青少年育成・ 社会教育)	会社役員 (青少年育成)	— (教育行政)

3 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
開催回数	定例会	12	12	12	12
	臨時会	5	8	7	6
計		17	20	19	18
付議案件数	審議	36	32	44	39
	協議	8	6	5	7
	報告	97	80	113	81
	その他	40	71	61	73
計		182	189	223	200

※市町村平均開催回数 15.3回（平成23年度文部科学省調べ）



◆平成24年度教育委員会会議の審議件数一覧

事 項	件数	主な内容
基本方針及び計画策定等	8	予算編成・組織定員方針、計画の策定など
規則等の制定・改廃	5	諸規則の改正 など
議会の議決を経るべき議案の意見聴取	3	予算、条例改正などの議会議決案件
人事案件	17	職員人事、教職員処分内申、委嘱など
附属機関等への諮問	2	通学区域審議会への諮問 など
教科書採択	1	小中学校使用教科用図書採択
その他	3	文化財の指定 など
合 計	39	

◆平成24年度教育委員会会議の状況について



審議案件については、「宇都宮市学校ICT化推進基本計画」、「宇都宮市立一条中学校改築基本計画」の策定や「宇都宮市学校教育推進計画」、「宇都宮市スポーツ施設整備計画」の改定などの審議のほか、附属機関等の委員委嘱などの人事案件の審議が多かったが、昨年度に比べて教育委員会諸規則の改正が少なく、全体としては減少した。

協議案件については、教育委員会における新たな計画策定などが減少していることや、委員協議会を活用し事前協議を行っていることから、例年並みの少ない件数であった。

報告案件については、各事業の実施状況のほか、いじめや体罰などの社会的課題にかかる本市の状況などの報告があったが、東日本大震災にかかる対応や平成24年度全市一斉実施の小中一貫教育・地域学校園（※1）などの報告が減少してきたことから、昨年度から比較すると大幅な減少となった。

(2) 委員協議会

教育委員会会議における議案の事前審議や各施策の実施状況の確認、その他教育課題に関する研究討議を行うため、平成24年度においては委員協議会を計12回開催した。

◆主な議題

- ・教育課題に関する意見交換会等の実施について
- ・通学区域の見直しについて
- ・「第2次地域教育推進計画」、「宇都宮市読書活動推進計画」等の素案について
- ・卒業式のあいさつ文について
- ・体罰・教員の駆け込み退職について
- ・学校給食における食物アレルギー対応について
- ・適応支援教室（※2）の整備について
- ・「小中一貫教育と地域学校園」の実施状況について
- ・体罰問題・体罰アンケート集計結果について
- ・教育委員会活性化について
- ・太陽光発電向け私有財産の貸出事業について ほか

（※1）地域学校園 小中一貫教育を進める上での小中学校の組合わせであり、地域の人材をはじめ自然、文化、伝統などを教育活動や学校運営に生かすなど、地域と共にある学校づくりを進めるとともに、学校、家庭、地域等が連携しながら大人も学びを深めることで、地域ぐるみの人づくりに取り組むためのもの。

（※2）適応支援教室 不登校など長期欠席の子どもを対象に、学校とは別の施設で学習の援助をしながら、学校に復帰できることを目標に運営している教室であり、ここに参加していることは学校への出席として扱われる。

(3) 視察、講習会や市民との意見交換などの活動状況

ア 学校・教育機関の視察

◆上戸祭小学校



【日程】

平成24年6月23日（土）

【内容】

- ・土曜授業実施状況及び災害時引渡訓練視察
- ・教職員及び地域代表者（地域協議会・地域コーディネーター・PTA会長）との意見交換

【結果】

- ・土曜授業の開催にあたり苦勞したことや工夫したこと、「地域と共に歩む学校」としての特色ある取組などについて校長や地域協議会会長、地域コーディネーター（※3）、PTA会長から貴重な話をいただいた。
- ・地域の方たちが学校をよりよくするため、新しい意見や企画を実践している様子を伺うとともに、学校や地域の現状、連携体制等について把握することができ、地域の熱意が伝わる意見交換会となった。
- ・土曜授業については、多くの保護者が参観されており、災害時引渡訓練では、学校と保護者の連携体制や訓練の大切さが改めて実感できた。

◆芳賀北小学校（芳賀町）

【日程】

平成24年9月20日（木）

【内容】

- ・学校施設（校舎、教室、体育館等）視察
- ・教職員との意見交換



【結果】

- ・学校施設環境が与える影響、また、子どもたちの心身の変化や教職員の指導方法、施設管理の工夫などについて貴重な話をいただいた。
- ・子どもたちに与える影響などから教育環境の重要性について改めて考えさせられるとともに、子どもたちが明るい学校生活を送れるよう、採光や色合い、資材など各教室の細部までこだわった設計を見学することができ、本市の施設整備の参考になる有意義な視察だった。

（※3）地域コーディネーター 魅力ある学校づくり地域協議会による学校・家庭・地域が連携した取組を円滑に進めるため、各小中学校区に設置された地域協議会の活動の総合的な調整役として学校と家庭・地域をつなぐための連絡調整を行う。

◆市内文化施設視察

【日程】

平成24年11月22日（木）

【内容】

- ・うつのみや遺跡の広場・資料館，上神主・茂原官衙遺跡，飛山城史跡公園・とびやま歴史体験館の視察
- ・文化財保護活動団体（飛山城史跡公園指定管理者）との意見交換

【結果】

- ・市内文化施設において，施設の維持管理や市民の来場状況，遺跡発掘調査の現状をよく知ることができた。
- ・文化財保護活動団体との意見交換においては，来場者数を増やすために様々なアイデアや工夫を試行錯誤し，活性化していく様子が伺えた。この飛山城史跡公園がモデルとなり，他の施設も活性化できればと考えた。



イ 教育委員の総会・研修会など

- ◆平成24年 5月18日（金）関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会・研修会
- ◆平成24年 5月22日（火）河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ◆平成24年 5月23日（水）栃木県市町村教員委員会連合会総会
- ◆平成24年10月12日（金）河内宇都宮地区市町教育委員会連合会定例会・研修会
- ◆平成24年11月 7日（水）栃木県市町村教育委員会連合会総会
- ◆平成24年11月 7日（水）栃木県市町村教育委員会連合会全体研修会

ウ 教育委員と二役（市長，副市長），市議会との意見交換会

◆二役（市長，副市長）との意見交換会

【日程】

平成24年9月20日（木）

【内容】

「本市の教育の充実について」

～宇都宮の街の活性化や今後のまちづくりにおける教育の果たすべき役割～

- ・街の活性化と市民の一体感や郷土愛の醸成
- ・文化，スポーツを通じた地域の活性化
- ・大人の間人間力向上と文化

【結果】

- ・伝統や文化を重んじることで郷土への誇りや郷土愛が生まれ，他を思いやる感情にもつながっていくなど，文化力の向上の大切さについての教育委員の考えを伝え，自由討議の意見交換を行った。
- ・市長，副市長からは，まちづくりの基盤となる人づくりの重要性や，宇都宮の教育のより一層の充実，経済やまちの発展に教育や文化を結びつけ，魅力ある都市にしていきたいとの話をいただいた。
- ・教育はまちづくりの視点からも大切であり，教育委員が一致団結して本市の教育行政をリードしていくことの重要性を改めて認識した。



◆市議会（議長，副議長）との意見交換会

【日程】

平成24年12月21日（金）

【内容】

「顔が見える教育委員会」へ向けて ～教育委員の活動と教育委員会のあり方～

【結果】

- ・教育委員会の活動状況報告やいじめ問題，教育委員会のあり方，教育委員としての責任・役割について意見や考えを伝え，市議会が教育委員会や教育委員に対して求めることについての意見交換を行った。
- ・議長，副議長からは，教育委員会と現場がどう繋がっていくかが重要な課題であり，一般の市民などから顔が見える教育委員会となるためには，教育委員会の活動の周知・広報が重要であるとのことをご意見をいただいた。

エ 教育懇談会（教育委員と市民等の意見交換会）

◆第1回，第2回（教職員との懇談会）

【日程】平成24年8月9日（木），10日（金）

【内容】・「頼れる教職員」「信頼される学校」をめざして
・小中一貫教育と地域学校園の全市実施について

【参加者】市内小学校の教職員7名，市内中学校の教職員6名

【結果】・教職員としてのやりがいや達成感をはじめ，信頼される学校となるために必要なことや，働きやすい職場環境づくりなどについて意見交換を行った。
・子どもたちや保護者のために試行錯誤しながら一生懸命取り組んでいる教職員や学校の現状を伺うことができるなど，充実した懇談会となった。
・また，平成24年度から実施の「小中一貫教育と地域学校園」をテーマに，それぞれの学校での特色ある取組や期待される効果などについて，現場の状況や教職員の生の声を聞く貴重な機会となった。

◆第3回（事務局職員との懇談会）

【日程】平成24年11月22日（木）

【内容】いじめ問題の対応と教育委員会の役割

【参加者】学校教育課担当職員など

【結果】・教育委員が考える本市教育行政の在り方や，実務担当者が考える教育行政事務の課題等について話し合うことにより，教育委員と実務担当者との連携を密にすることができた。
・実務担当者が教育委員の考えや意見などを直接伺うことで，今後の施策事業への教育委員の意見の反映を図るためのきっかけとなった。

◆第4回（市民との懇談会）

【日程】平成25年1月25日（金）

【内容】「家庭教育について考えること」

【参加者】家庭教育オピニオンリーダー会（※4），子どもの家（※5）指導員，親学学習プログラム指導者，家庭教育サポーター，親学と子どもの情報誌「こどもるつくる」作成委員

【結果】・家庭教育支援活動を行う市民の方々から，家庭教育支援活動内容，活動のきっかけや思いなどの話をいただき，家庭教育の現状やこれからの家庭教育支援についての意見交換を行った。支援活動を行う上での苦労もある中，それぞれ色々な工夫をしながら支援活動を行っている様子が伺え，行政に訴えたいことなど直接現場の声を聞くことができる有意義な時間となった。
・意見交換会後は，教育委員会会議を傍聴していただき，教育委員会の活動を知ってもらえるいい機会となった。

（※4）家庭教育オピニオンリーダー会 子育ての先輩など，家庭教育の指導者として研修を受けた人たちが，子どものしつけや発育，家族のあり方などの家庭に関して相談できる団体など。
（※5）子どもの家 本市の事業で，共働きなどで昼間不在になってしまう家庭の児童（主に小学1年から3年）を対象に，放課後における安全・安心な生活の場を提供する。

オ 教育委員による自主活動など

教育委員会会議や視察、意見交換会などのほかに、教育委員が個別に行った活動については以下のとおりである。

◆学校関係の活動

- ・市内小中学校卒業式での挨拶
- ・市PTA連合会や地域協議会等の会議出席
- ・市内学校訪問、教員との情報交換
- ・土曜授業や運動会、文化祭、記念式典など学校行事への参観
- ・学校ボランティア活動
- ・他市町の教育委員会訪問や教育事務所訪問 など

◆地域の活動

- ・成人式での挨拶
- ・地区の防災訓練、祭りなどへの参加
- ・青少年育成会、子ども会連合会の行事への参加 など

◆市イベント・行事への参加

- ・南としょかん祭、宮っこフェスタ、食育フェア、ジャパンカップクリテリウム、宇都宮マラソン大会、うつのみや人づくりフォーラム など

◆その他の活動

- ・宇都宮ユネスコ協会絵画展審査
- ・市教育センター公開講座の受講 など

(4) 広報広聴活動

ア 「第13号 宮っこだより(平成24年9月)」の発行(年1回発行、全戸配付)

【教育委員コラム】水越 久夫 教育長

- ・現代社会では人と人との関わりが希薄になっているが、学校とそこで学ぶ子どもたちを中心として、地域のつながりを取り戻すことが可能であると考える。
- ・学校や地域を舞台に、様々な世代の人達が関わり合い教え合うことで学校での学習だけでは得られない、真の「学び」を実感できるのではないか。
- ・人と人が伝え合うこと、それこそが学びの原点である。

【主な取組の紹介】

- ・小中一貫教育と地域学校園がスタート「地域はみんなの学校の取組など」
- ・特別支援学級の子どもたちや卒業生を支えてくれるみなさんの活動
- ・その他教育に関するいろいろな情報 など

イ 市ホームページへの「みんなで育てよう!かがやく宮っこ」の掲載(随時更新)

- ・教育委員の活動報告(小中学校をはじめとする教育施設の視察、懇談会等)
- ・「人づくり」についての家庭、地域等へのアドバイス など

ウ その他

- ・宮っ子表彰(義務教育9年間皆勤賞)表彰式、成人式、小中卒業式での式辞、うつのみや人づくりフォーラムなど、あらゆる機会を捉え、教育委員が市民に対し「人づくり」についての意識高揚を図った。



4 教育委員会の活動状況の評価

(1) 評価・課題

- 教育行政の方針等について十分な審議を行うため、会議の前後に委員協議会を開催し、計画の策定・改定などの重要案件について事前に協議を行うほか、いじめや体罰などの社会的な問題に対する本市の対応状況などについて教育委員と事務局職員が十分に意見交換を行うなど、大所高所から本市の教育行政の方針を決定し、レイマンコントロール（※6）による教育委員会運営を行うことができた。
- 教育行政に市民、教育現場の意見を反映させるため、視察や研修、教育懇談会を通して実際の現場の状況や課題の把握に努めるほか、二役（市長、副市長）や市議会と意見交換を行い、教育行政の方針や課題について共通認識を図ることができた。しかしながら、子どもたちや保護者、教職員などの学校現場の現状や課題などをさらに把握するためには、より多くの学校現場への視察の機会を設ける必要がある。
- メッセージを積極的に市民に発信していくため、「宮っこだより」や教育懇談会における意見表明、式辞、人づくりフォーラムなどを通して、学校や家庭、地域、企業に向けて、人づくりのあり方や、人の輪が子どもたちの夢を育み、魅力あるまちづくりに繋げていくことの大切さなどを発信し、人づくりの重要性に対する機運を高めることができた。また、ホームページを通して随時情報発信をしてきたが、「宮っこだより」を年1回の発行としたことにより教育委員の声を広く市民に知ってもらう機会が減り、それに代わる情報発信手段が今後の課題である。

(2) 今後の方向性

- 教育委員会会議での自由な討議、市長や事務局との積極的な意見交換など、教育委員がそれぞれの立場で多様な意見を発言できる機会を増やしていく。
- 教育施設等への視察や意見交換会などを積極的に開催し、子どもや保護者、教職員、地域住民などの多くの声を聴くことにより、常に現場の状況や課題の把握に努めていく。
- 広く市民などに教育委員会の活動を知ってもらう機会を増やすなど、「開かれた教育委員会」を目指し、より一層の広報機能の充実を図っていく。

（※6）レイマンコントロール 一般人（レイマン）である非常勤の委員で構成される教育委員会の委員の合議により、大所高所から基本方針を決定し、それを教育行政の専門家である教育長が事務局を指揮監督して執行すること。

第4章 教育委員会施策全般の評価

本市で実施している行政評価を活用しながら、第5次総合計画基本計画の体系に掲げた4つの基本施策を構成する15の施策ごとの評価を実施する。

【施策全体の評価】

- 施策の全体的な評価としては、各施策における施策指標について概ね目標が達成されるなど、各施策の取組が順調に進んでいる。
- 施策指標の達成度が低いものなど各施策における課題等については、事業の取組の充実を図るなど、施策目標・指標の達成に向けて継続して取り組んでいく。

【基本施策・施策】

- 1 生涯にわたる学習活動を促進する
 - (1) 学ぶ意欲の向上に向けた学習環境の醸成
 - (2) 学校・家庭教育支援の充実
 - (3) 学んだ成果を活かす仕組みの構築

- 2 信頼される学校教育を推進する
 - (1) 学力向上の推進
 - (2) 豊かな人間性と健やかなからだの育成
 - (3) 地域と連携した独自性のある学校経営の推進
 - (4) 教育環境の充実
 - (5) 特別支援教育の充実
 - (6) 高い指導力と情熱をもつ教職員の育成
 - (7) 幼児教育の充実
 - (8) 高校・高等教育の充実

- 3 個性的な市民文化・都市文化を創造する
 - (1) 文化活動環境の充実
 - (2) 文化資源の保存，継承，活用

- 4 生涯にわたるスポーツ活動を促進する
 - (1) スポーツ活動環境の充実
 - (2) スポーツを支える人材の育成，団体の活性化

1 生涯にわたる学習活動を促進する

(1) 学ぶ意欲の向上に向けた学習環境の醸成

施策目標	一人ひとりが、自分にあった学びの機会や場を得て、いきいきと学んでいます。			
施策指標	①全生涯学習センターで開催される講座の延べ参加者数	平成24年度		評価 (※7)
		目標	23,763人	A
		実績値	21,747人	
		達成度	91.52%	
進捗状況	順調			
評価・課題	各生涯学習センターにおいて、多様な市民ニーズに即した事業を実施しているところであるが、地域教育の着実な推進にあたっては、地域社会の牽引役となる大人の気づきが重要であることから、大人に対する学習機会の充実及び幅広い世代の参加促進が課題である。			
今後の方向性	今後は平成25年3月に策定した「第2次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、社会の要請への対応や個人の自立に資するため、地域課題や生活課題解決に向けた講座に取り組み、幅広い世代の参加者の増加を図っていく。			

(2) 学校・家庭教育支援の充実

施策目標	学校や家庭などが連携し、地域をあげて子どもの育成に関わっています。			
施策指標	①放課後子ども教室(※8)に係る延べ地域活動者数	平成24年度		評価
		目標	17,016人	A
		実績値	16,907人	
		達成度	99.36%	
進捗状況	順調			
評価・課題	地域教育活動の必要性を訴え、活性化支援に着実に取り組んできたことにより、放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数は順調に増加しているが、各魅力ある学校づくり地域協議会(※9)の活動の充実・強化や、家庭の教育力向上事業に係る関係団体・企業等との連携強化、 <u>宮っ子ステーション事業</u> (※10)の推進における国の「子ども・子育て新システム(※11)」への対応などが課題である。			
今後の方向性	学校、家庭、地域、企業と連携・協力しながら、家庭や地域の教育力向上に努め、地域の教育力を生かした学校教育への支援に向けた取り組みを進めていく。			

(※7)評価の考え方 A:達成度90%以上 B:達成度70%~90%未満 C:達成度70%未満

(※8)放課後子ども教室 放課後等における全ての児童(参加希望の児童が対象)の健全育成を図るため、体験活動や異年齢交流活動、学習支援の場を提供することを通して、地域ぐるみで子どもを育む取組。

(※9)魅力ある学校づくり地域協議会 学校やPTA、自治会などの地域の大人たちで構成され、未来を拓く心豊かでたくましい宮っ子を育むために、学校・家庭・地域・企業と一体となって、「学校教育の充実」と「家庭や地域の教育力向上」に取り組む組織。

(※10)宮っ子ステーション事業 放課後の児童に安全安心な居場所を提供することを目的に、留守家庭児童の生活の場である「子どもの家・留守家庭児童会」と全ての児童を対象に、体験活動や異年齢交流活動等を提供する「放課後子ども教室」の2つの事業を地域主体の組織が一体的に運営する取組。

(※11)子ども・子育て新システム 子ども・子育て関連の制度・財源・給付を一元化するとともに、制度の実施主体を市町村とし、国・都道府県等が制度の実施を重層的に支える一元的な制度として国が検討しているシステム。

(3) 学んだ成果を活かす仕組みの構築

施策目標	より良い地域社会をつくるために、学びの成果を活動に活かしています。			
施策指標	①人材バンクの登録者数	平成24年度		評価
		目標	370人	
		実績値	306人	
		達成度	82.70%	
進捗状況	概ね順調			
評価・課題	地域版人材バンク(※12)においては、試行実施の地域における主催事業への参加・協力の募集に対し、多数の活動者が集まったところであるが、施策目標の達成に向けて、学習成果を生かす機会の創出や、学んだ人材を活躍の場へとつなぐ仕組みづくりが課題である。			
今後の方向性	地域版人材バンクにおける、設置地区や応募方法、活動内容の拡大について取り組んでいくとともに、社会の要請に応える講座の実施など、学習を通じて地域における活動の循環を促し、地域や関係団体などとの連携・協力を図りながら、学習成果を社会参画や地域活動につなげる仕組みづくりに取り組んでいく。			

(※12)地域版人材バンク 地域活動に興味を持っている地域住民と、地域のイベントなどにおいて活動者を必要としている団体等とのマッチングを図るため、周知募集や登録を行う取組。

2 信頼される学校教育を推進する

(1) 学力向上の推進

施策目標	児童生徒が、確かな学力とともに、未来を切り拓く力を身につけています。			
施策指標	①学習内容定着度調査(※13)における正答率 80%以上(中学校3年生の国語)	平成24年度		評価
		目標	71.00%	
		実績値	73.10%	
	②学習内容定着度調査における正答率50%未満 (中学校3年生の国語)	目標	4.00%	C
		実績値	5.90%	
		達成度	67.80%	
	③学習内容定着度調査における正答率80%以上 (中学校3年生の数学)	目標	72.90%	A
		実績値	70.00%	
		達成度	96.00%	
	④学習内容定着度調査における正答率50%未満 (中学校3年生の数学)	目標	11.70%	B
		実績値	14.10%	
		達成度	83.00%	
	⑤学習内容定着度調査における正答率80%以上 (中学校3年生の英語)	目標	68.70%	B
		実績値	61.70%	
		達成度	89.80%	
	⑥学習内容定着度調査における正答率50%未満 (中学校3年生の英語)	目標	10.30%	A
		実績値	10.80%	
		達成度	95.40%	
進捗状況	順調			
評価・課題	<p>これまで学力向上推進事業として取り組んできた習熟度別学習(※14)などに加え、平成21年度から「授業力向上プロジェクト(※15)」を実施し、教職員の授業力向上に努めてきた成果が、学習内容定着度調査における正答率80%以上の生徒の割合として現れるなど成果が出ている。</p> <p>また、学習内容定着度調査における正答率50%未満の生徒の割合のうち、特に英語の状況が良好なのは、中核市でも上位の取組である外国語指導助手の全校派遣を通して、児童生徒がネイティブの英語に触れることにより、英語学習への関心が高まっていることが要因と考えられる。</p> <p>今後の課題として、国語・数学については小中一貫教育など義務教育9年間を見通した系統性のある指導を行うとともに、対象児童生徒への丁寧かつ継続的・反復的な指導による基礎学力の向上が必要である。</p>			
今後の方向性	<p>児童生徒の学力向上に成果を上げている「授業力向上プロジェクト」などの事業を一層推進していく。また、課題である基礎学力の向上のため、習熟度別学習などの少人数指導の充実を図り、小中一貫教育における基礎期(※16)の指導を徹底するとともに、家庭学習の習慣化を図っていく。</p>			

(2) 豊かな人間性と健やかなからだの育成

施策目標	児童生徒が、思いやりやたくましい心と体をもち、規範意識をもって生活しています。			
施策指標	①いじめの解消率	平成24年度		評価
		目標	100.00%	
		実績値	96.90%	
	②新体力テスト(※17)総合評価A段階の割合(中学3年生)	目標	22.10%	A
		実績値	25.10%	
		達成度	113.60%	
進捗状況	順調			
評価・課題	<p>いじめ撲滅のためには、学校教育活動全般を通して、児童生徒一人一人の思いやりや規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育む活動による未然防止に向けた取組と、家庭や地域と連携を図りながら、いじめゼロ運動を着実に推進することが必要である。</p> <p>また、子どもの健康・体力、食育を推進する「<u>うつのみや元気っ子プロジェクト</u>」(※18)を一層効果的に進めるために、日常生活や学校生活以外の場においても取組の充実が図られるよう、家庭や地域、関係団体等と連携を図る必要がある。</p>			
今後の方向性	<p>心豊かな児童生徒の育成を一層推進していくため、「心の教育プロジェクト」を立ち上げ、各学校が主体となって、家庭、地域と連携を図りながら、心の教育を推進していくとともに、健やかな体の育成を図るため、家庭や地域、関係団体等と連携を図り、体力の向上や食育の推進に取り組んでいく。</p>			

(※13)学習内容定着度調査 児童生徒がその学年で身につけるべき学習内容の定着状況を評価する調査。教員はその結果分析により学習指導の工夫・改善を実施する。

(※14)習熟度別学習 児童生徒一人一人の学習の習熟度などに応じて、学級や学年をいくつかのグループに分けて授業を行う学習形態。

(※15)授業力向上プロジェクト 教員の授業力向上を目的として、授業改善のポイントを示した資料の作成、授業力向上のための実践研究を学校が発表する研究発表会の開催などを行う本市独自の事業。

(※16)小中一貫教育における基礎期 義務教育9年間を4年、3年、2年に分けた中で、基礎を学ぶ小学校1～4年の時期。

(※17)新体力テスト 平成11年度の「体力・運動能力調査」から導入されたテストであり「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「反復横跳び」「持久走(20mシャトルラン)」「50m走」「立幅跳び」「ボール投げ」の8種目。

(※18)うつのみや元気っ子プロジェクト 本市児童生徒の体力の向上と健康の保持増進を目指し、平成20年度に策定した「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」。

(3) 地域と連携した独自性のある学校経営の推進

施策目標	各学校が、家庭や地域、企業と連携・協力しながら、信頼され魅力のある学校づくりを進めています。			
施策指標	①「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」と回答した保護者・地域住民の割合	平成24年度		評価
		目標	89.20%	
		実績値	93.30%	
		達成度	104.60%	A
進捗状況	順調			
評価・課題	<p>平成20年度の「魅力ある学校づくり地域協議会」の全校設置により、学校と地域の連携の基盤が醸成されるとともに、平成24年度に「小中一貫教育・地域学校園」を全市展開したことによって、学校と家庭、地域、企業との連携・協力が一層推進され、学校運営や教育活動の充実が図られたものと考えられる。</p> <p>今後は、家庭や地域、企業等と連携・協力した信頼と魅力ある学校づくりを進めるため、小中一貫教育・地域学校園が本市の実情に適した継続的・効果的な取組となるよう確実な検証を行う必要がある。</p> <p>また、魅力ある学校づくり地域協議会による学校運営への参画機能の充実を図るとともに、<u>学校マネジメントシステム</u>（※19）などを活用し、開かれた学校づくりに努め、家庭や地域等からの理解と協力を得ながら、特色ある学校運営や教育活動を推進する必要がある。</p>			
今後の方向性	<p>各学校が小中一貫教育と地域学校園を基盤として、家庭や地域、企業と連携した取組を進めていくためには、魅力ある学校づくり地域協議会が重要な役割を果たすことから、本協議会による学校運営への参画機能の充実を図っていく。</p> <p>また、現在の取組をより一層充実するため、財政支援などを継続していく。</p>			

(※19)学校マネジメントシステム 各学校が、学校経営計画(Plan)に基づき実践(Do)した教育の成果を評価(Check)し、次年度の教育活動の充実と学校運営の改善(Action)を図る本市独自の制度。

(4) 教育環境の充実

施策目標	児童生徒が、安全で快適な教育環境の中で学校生活を送っています。			
施策指標	①耐震化率（学校校舎・体育館）	平成24年度		評価 A
		目標	85.00%	
		実績値	85.00%	
		達成度	100.00%	
進捗状況	順調			
評価・課題	耐震性の低い校舎，体育館等について，事業の優先化を図り，国の補正予算なども最大限活用し，耐震補強工事や建替え工事を実施しているが，平成27年度耐震化完了を目指し，事業費の確保に向けた積極的な取り組みが必要である。また，耐震化事業等が完了した後の老朽化した学校施設の更新や長寿命化に向け，改めて事業の進め方を検討する必要がある。			
今後の方向性	学校施設の安全性確保や老朽化への対応，快適な学習環境の確保がますます求められており，耐震化，校舎大規模改造，体育館改築， <u>リフレッシュスクール</u> （※20）などの事業について，計画的に推進していく。特に，校舎・体育館の耐震化については，平成27年度に耐震化率を100%にするため，最優先で取り組んでいく。また，校舎大規模改造事業については，公共施設長寿命化計画に基づく老朽対策工事やトイレの洋式化などの機能向上の工事などを適正な時期に施工できるよう検討する。			

(5) 特別支援教育の充実

施策目標	児童生徒一人ひとりが，ニーズに応じた適切な教育的支援を受けています。			
施策指標	①個別の支援計画を活用して，特別支援教育を 実践している学校の割合	平成24年度		評価 A
		目標	98.00%	
		実績値	97.80%	
		達成度	99.80%	
進捗状況	順調			
評価・課題	特別な教育的な支援が必要な児童生徒一人ひとりへのニーズに応じた適切な教育的支援の提供については順調に進捗しているが，今後とも，幼児期から就労期まで一貫した支援の確保，特別支援学級等担当者の人材育成や全教職員の特別支援教育に係る指導力の向上， <u>かがやきルーム</u> （※21）指導員の拡充や効果的な活用，指導内容の充実，などの課題に対応していくことが必要である。			
今後の方向性	小中学校において個別の支援計画が適切に策定・活用されるよう研修や学校訪問時などにおける指導助言，より多くの教員が特別支援学級等を経験し，特別支援教育に係る指導力の向上が図れるような人事異動，教育センター職員による訪問指導や経験年数に応じた研修の実施，さらには，かがやきルームへの指導員の配置，指導内容の充実などにより，特別支援教育の充実に努めていく。			

（※20）リフレッシュスクール 空調設備の維持やトイレの洋式化など，ゆとりと潤いのある学習環境を確保するための取組。

（※21）かがやきルーム 通常の学級に在籍し，発達障がいなどの傾向により，学習面や生活面に困難を抱えている児童生徒に対して，きめ細かな個別指導や小集団指導を週5時間を上限に行う場として，校内に設けられた教室。本市では全国に先駆け，平成20年度に設置を開始し，平成22年度には小中学校全校に設置（他市でも同様の取組に着手中）。なお，専任の指導員は，平成25年度は小学校67校，中学校20校に配置（未配置校は，中学校5校と該当児童のいない小学校1校）。

(6) 高い指導力と情熱をもつ教職員の育成

施策目標	教育への情熱があり、信頼される教職員が育成されています。			
施策指標	①教員マイスター制度（受講者）とうつのみや授業の達人（表彰者）の対象人数	平成24年度		評価
		目標	42人	
		実績値	41人	
		達成度	97.62%	
進捗状況	順調			
評価・課題	教科等の指導的役割を担う中核教員の育成を図る「教員マイスター制度」や、優れた授業を実践している教員を表彰する「うつのみや授業の達人表彰制度」を推進することで、高い指導力と情熱をもつ教職員の育成が図られている。これらの教員を研修講師として活用するとともに、各学校へバランスよく配置し、学校内OJTの活性化を推進することにより、教員全体のレベルアップに繋がっている。今後は、多様化・複雑化している学校教育をめぐる困難な課題に柔軟に対応することや、現在4割を占める50代の教職員の大量退職に対応するため、ベテランから若手教員への指導法の継承といった人材育成機能の維持向上等が課題である。			
今後の方向性	平成24年4月に策定した「教職員人材育成システム」を着実に推進するほか、本市教育の現状と課題を踏まえ、児童生徒の可能性を最大限に伸長する教育を推進するため、小中学校間での交流授業や地域学校園内一人職の相互支援など、小中一貫教育のよさを生かした研修の実施や、授業力の向上に関する研修の強化及び教育センター研修の充実を図る。			

(7) 幼児教育の充実

施策目標	幼児が、人間形成の基礎となる適切な教育を受けています。			
施策指標	①幼稚園・保育園に入園していない児童（3～5歳）の割合	平成24年度		評価
		目標	5.00%	
		実績値	5.00%	
		達成度	100.00%	
進捗状況	順調			
評価・課題	幼稚園への就園支援、保育施設の整備等により、幼児が適切な教育を受ける機会の確保については順調に進んでいるが、今後も小1プロブレム（※22）解消に向けた幼児教育と小学校教育の円滑な接続や発達段階に応じた教育活動の充実、また、就園の利用者負担の軽減及び教育・保育の量的需要に対応した施設整備が必要である。			
今後の方向性	幼保小におけるより一層の連携などにより、引き続き幼児教育の活動・環境の充実を図っていくとともに、今後の幼児教育のあり方を検討し、「子ども・子育て支援新制度」の動向等にも対応しながら、幼児教育の質的向上を図っていく。			

（※22）小1プロブレム 授業が落ち着いて聞けない、集団行動がとれないなど、小学校入学直後の児童に見られる問題行動。

(8) 高校・高等教育の充実

施策目標	市民が自己実現を図るために必要な、高度で専門的な学習機会や場が充実しています。				
施策指標	①市内8大学の公開講座数	平成24年度		評価	
		目標	75講座		
		実績値	73講座		
	達成度	97.33%	A		
	②奨学金貸付基準を満たす希望者のうち貸与を受けることができた者の割合	目標		100.00%	A
		実績値		100.00%	
達成度		100.00%			
進捗状況	順調				
評価・課題	<p>市民の自己実現を図るために必要な学習機会等を充実させることを目的に、公開講座数の拡大や奨学金貸付事業などの取組を進めている。</p> <p>公開講座については、平成24年度に73講座が実施され、学習機会や場の充実が図られている。また、奨学金貸付事業の実施により、貸付を必要としている者に対する修学機会の確保が図られている。</p> <p>課題として、リカレント教育(※23)については市民ニーズにあわせた公開講座の開催や講座内容の充実が必要であるとともに、奨学金貸付事業については、基準を満たした希望者全員に貸付を行い、引き続き修学機会の充実を図っていく必要がある。</p>				
今後の方向性	市内8大学等との連携を強化しながら公開講座の充実を図るとともに、貸付事業については積極的なPRの実施や必要に応じた制度の見直しを行いながら、高度で専門的な学習機会や場の充実を図っていく。				

(※23)リカレント教育 社会人が新しい知識・技術・資格などを身に付けるため、再び教育を受ける、または、学習すること。

3 個性的な市民文化・都市文化を創造する

(1) 文化活動環境の充実

施策目標	市民が、主体的に芸術文化活動を展開しています。				
施策指標	①市民芸術祭、ジュニア芸術祭の参加者数	平成24年度		評価	
		目標	134,000人		
		実績値	129,300人		
	達成度	96.49%	A		
	②文化会館自主事業参加者数	目標		94,200人	A
		実績値		92,678人	
達成度		98.38%			
進捗状況	順調				
評価・課題	文化活動環境の充実に努めているが、今後とも継続的な市民の文化活動を推進するため、市民が気軽に利用できる文化活動環境の場の充実に図り、更に文化芸術の裾野を広げるとともに、文化の担い手を育成する文化振興事業を推進する必要がある。また、更に市民の文化活動の質の向上を目指す必要がある。				
今後の方向性	引き続き、市民の文化活動環境の充実に努めるとともに、子どもの文化芸術活動の支援として「ふれあい文化教室（※24）」等の実施や、本市の文化振興の中核を担う施設として文化会館の改修を実施していく。また（公財）うつのみや文化創造財団の人材を活用した市民芸術祭の実施等により、市民の文化活動の質の向上を目指す。				

(※24)ふれあい文化教室 市内の小中学生を対象に、各芸術分野の第一線で活躍する宇都宮市文化協会の会員を講師に招き、学校の授業時間内で伝統音楽・古典芸能や文芸、ジャズ、ダンス等の演奏・実演や解説、体験などを実施するもの。

(2) 文化資源の保存, 継承, 活用

施策目標	市民が文化遺産・伝統文化などの文化資源を活用し, 各々の地域に根ざした文化を守り, 伝え, 育んでいます。				
施策指標	①文化財保存団体数	平成24年度		評価	
		目標	52 団体		
		実績値	52 団体		
		達成度	100.00%	A	
	②文化財活用施設利用者数	目標	121,370 人		A
		実績値	149,388 人		
		達成度	123.08%		
	③個性ある文化資源活用イベント入込客数	目標	157,250 人	A	
		実績値	166,892 人		
達成度		106.13%			
進捗状況	順調				
評価・課題	本市の貴重な文化財を適切に保存・継承・活用するため, 市民への周知啓発事業を推進し, 市民の文化財への関心や歴史認識を高めるとともに, 次世代の継承者の育成に係る事業を推進する必要がある。また, 本市の個性的な文化資源について更なる活用を進め, 効果的な情報の集約・発信を行う必要がある。				
今後の方向性	市民の歴史認識や文化財への関心を高めるため, 百人一首の成り立ちを市民に知ってもらうとともに, 収蔵整理施設の整備・文化財展示施設の有効活用・老朽化した文化財表示板の整備等について検討を進める。 また, 伝統文化に身近に触れる機会を創出し, 地域の継承活動など次世代の継承者の育成の支援を行う。さらに, ジャズ, 百人一首, 妖精, 大谷の景観などの本市の個性ある文化資源の活用と情報発信により, 市民の芸術文化・歴史文化への興味・関心を高める。				

4 生涯にわたるスポーツ活動を促進する

(1) スポーツ活動環境の充実

施策目標	市民が主体的に自分に合ったスポーツに取り組んでいます。			
施策指標	①20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ活動実施率	平成24年度		評価
		目標	49.30%	
		実績値	49.20%	
	②地域スポーツクラブ ^(※25) 数	目標	7団体	B
		実績値	6団体	
		達成度	85.71%	
進捗状況	順調			
評価・課題	スポーツ実施率や地域スポーツクラブ設立数などの目標は概ね達成しているが、市民が主体的にスポーツに取り組む機会や場を整えるため、地域スポーツクラブの設立・育成や活性化、また、スポーツ施設の計画的な整備改修を進めていくことが必要である。また、スポーツに取り組む意欲を醸成するため、 <u>ジャパンカップ</u> ^(※26) などトップスポーツのイベントを開催していく必要がある。			
今後の方向性	地域スポーツクラブの設立や既存クラブの安定的な運営のための補助金のあり方を検討するとともに、ジャパンカップについてはスポーツ人口の底辺拡大につながるよう魅力の向上や観戦環境の向上に取り組む。また、スポーツ施設についても市民が利用しやすいよう施設の特性や役割に応じた整備改修を行う。			

(2) スポーツを支える人材の育成、団体の活性化

施策目標	市民のスポーツ活動が多くの指導者、スポーツ団体により支えられています。			
施策指標	①スポーツ指導者研修の受講者数	平成24年度		評価
		目標	700人	
		実績値	706人	
	②スポーツ教室の参加者数	目標	41,000人	A
		実績値	40,919人	
		達成度	99.80%	
進捗状況	順調			
評価・課題	スポーツ指導者研修会の受講者数や教室の参加者数などの目標は達成しているが、市民のスポーツ活動を多くの指導者やスポーツ団体が支えていくためには、指導者の資質向上や指導者が能力を発揮できる機会の創出が必要である。			
今後の方向性	スポーツ推進委員会や体育協会などスポーツ団体と連携・協力しながら指導者の育成、スポーツ団体の活性化に取り組むとともに、市民がスポーツへの興味・関心を高めスポーツを見る機会の充実を図るため、プロスポーツチームへの支援を行っていく。			

(※25)地域スポーツクラブ 身近な公共施設を拠点とし、2種類以上のスポーツ種目が用意され、子どもから高齢者までの誰でも加入できるスポーツクラブ。会費を主な財源とし、地域住民が主体的に運営する。

(※26)ジャパンカップ 森林公園周辺周回コースで行われる自転車競技大会。今年で22回目を迎え、ロードレースの本場欧州で活躍する世界トッププロを間近で観られる大会として、毎年全国から多数の来場者が訪れている。ワンデイロードレースとしてはアジア最高位のカテゴリ(オークラス)に位置する。大会の前日には、アマチュアレースと大通りでのクリテリウムを開催している。

第5章 評価委員による所見

【木村 寛 評価委員】

1 総合評価

本年度の教育委員会評価会議において特筆したいことは、検討するために用意された資料の形式とその内容が大きく改善されたことである。具体的には、例えば、資料の作成過程が簡素化されたにも拘わらず、前年度の評価結果が本年度の計画・施策にどのように反映されたかを具体的に確認した資料に改められた。

同資料と各関係部署の説明・質疑に基づいて、教育委員会と事務局の活動を点検・評価した結果、この1年間の活動は全体的に良好であったと判断した。

2 教育委員会の活動状況について

◆教育委員会会議・委員協議会の開催状況について

- ・教育長を除く教育委員は本業を持ちながらのボランティア的な任務でありながら、本年度も例年度とほぼ同様に多くの実際的な活動を行っていることに敬意を表したい。
- ・行政主導といわれる中、本来の教育委員主導に改めるという発想ではなく、日常的に教育活動に限らずいろいろな場で活動している教育委員と、教育行政担当者(教育実践研究専門家・教育事務専門家)が意見交換し協力して教育方針・施策案を打ち出し公表して、教育現場や市民の賛同を得るという位置付けとしくみも視野に入れて、市民にその是非を問うてもよいのではないか。

◆視察・研修・意見交換会等の開催状況について

- ・教育委員が行える実際的な活動も、現実的には最多の状態では実施されているのではないかと推察される。
- ・これまでの教育委員の視察・意見交換等の他に、どのような意見収集の方法があるかを再検討してもよいのではないか。例えば、教育委員会の在り方や教育委員の活動等、本市の教育行政などについて、本市や他地域の教育関係者、保護者や一般の人からの期待・意見や印象などをアンケート方式で聴き、施策案作りの参考に加えることも検討に値しないか。
- ・教育に限らず、事業の成否は直接に係わる者の活動で決まるのであろうから、直接に係わる人達からの修正・改善に対する提案を促し、その収集する方法を広く考えることが重要ではないか。そのために、例えば、記名の投稿の場を設けたり、いろいろな範囲での任意で自主的な形の、保護者や教師のグループ等による検討を呼びかける試みも如何か。

◆広報活動について

- ・教育委員会の諸事業の中で、この面の活動が最も弱いという感を持っている。特に、管轄の範囲で起こっている大多数が好ましいと感じた出来事や活動を、市民に周知して戴くための工夫をさらに進めて欲しい。

◆活動状況の点検・評価について

- ・評価資料の作成から評価内容・方法や評価結果の報告書様式などを再度見直し変更したこ

とにより、評価結果が次の施策のどこに反映できたかが確認し易くなった。逆に、例えば自己評価と評価委員による所見への対応を整理して示すことにより、前年度の評価結果が本年度の施策により好く反映されるようになったのではないかと。

- ・次年度では、評価報告書において、数値による評価(目標値)を示す際にはその趣旨と数値の算出方式も明示したい。
- ・どのような事業においても、その事業を点検・評価するにあたっては、費用対効果の側面からも考察するのが常識と考えるので、今後の点検・評価に関わる資料に、大まかな総額と内訳等を加えることを望みたい。

3 教育委員会施策について

◆評価・課題について

- ・自己評価の方法などについて大きな改善がなされていることが分かった。自己評価の作業について、更なる省力化の余地を探ることを望みたい。

◆今後の方向性について

- ・教育委員会・事務局や、所轄の例えば学校が行っている業務・活動を市民に知って戴くことが、より好い活動を目指す重要な基盤と感ずるので、広報に関する方法の更なる検討を特に若年層の人達に担ってもらいたい。
- ・急速に変化する社会・方向性が予測困難な状況といわれて久しくなるが、それが多忙と二極化を生み出しているとも考えられないか。きちんと考え着実に実行していく諸機関を目指すならば、まずは、教育委員会・事務局が普段は定時出勤・退庁できる業務に簡素化すべきであり、それを見習って、学校などの業務範囲等も大幅な見直しを考え修正していくべきと考える。例えば、現在話題となっている子どもの食物アレルギーに対する安全を求める対応は、教員の注意徹底だけに頼るのでは、教師の過多忙を加速して事故防止は期待しにくいのではないかと。
- ・教育・文化・スポーツなどの事業について、投資の面・費用対効果に比重を置いた議論も欠かせないとおもうので、この面から多くの人に広く検討して戴くことを考えていきたい。例えば、小中一貫教育の取り組みについても、求める方向は大いに賛同されいながら、着実な成果を上げながら進めるには、施策実施の順序を見直すことも必要と感ずる。例えば、スタッフを増やすこと、移動時間短縮と連携を促す設備面を整備することと、小中学校の教員が出講授業を行うことの順序は、実施することに依る成果と弊害が逆転することも考えられないか。
- ・教育は、子どもを取り巻くすべての大人・年長者が、子どもに未来を託して行う最重要な営みであることを思い起こせば、保護者と学校・教員と教育委員会だけでなく、その地域の人や企業に協力・共同ではなく、協働の考え方で取り組むことを訴えて種々の事業に取り組むたい。

【山田 葉子 評価委員】

1 総合評価

多様な対象分野と事業について総じて適正な点検・評価が成されていると思量する。

市民にわかりやすい表現を心掛け、専門用語には注釈が付くなど昨年の評価所見への対応も含め明示していただき外部評価を踏まえた総合評価となっている。

ただ、施策に対する指標となる項目によっては連動されていないものもあり今後検討を要するものもあるように思う。また、1つの施策に対して複数の観点からの数値目標があったほうがより課題を見出しやすいのではないか。

「社会総ぐるみの人づくり」の視点からも、引き続き全体を俯瞰しつつ基本方針と各施策の関係、各事業相互の関わりを調整し宇都宮市の教育行政をリードする教育委員会であることを期待する。

2 教育委員会の活動状況について

◆教育委員会会議・委員協議会の開催状況について

- ・付議案件増減理由の記載もあり、開催回数や付議案件は充分と捉える。
- ・委員協議会を活用して協議案件についての事前協議等の効率的努力も見られ、また、委員 de サロン開催など事務局と和やかな雰囲気との連携を図る場もあり、委員の意見が施策に反映されやすいシステムである。

◆視察・研修・意見交換会等の開催状況について

- ・教育委員が専任職でない中で、文化施設や小学校視察・各研修会・意見交換等々を開催し広聴の機会や直接意見を発信する機会として充分と捉える。
- ・ただ、研修会については内容の記載がなかったことと、視察先（上戸祭小や芳賀北小）や市民との懇談会の相手（家庭教育支援活動関係者）を決定された理由を示す記述があるとよかった。

◆広報活動について

- ・宮っこだよりの各戸配布やホームページを活用して広く市民に広報・周知活動を行なっているがマンネリズムに陥る危険性も考慮し「読んでもらう」「見てもらう」「興味をそそる」をキーワードに市民のニーズに敏感に反応できるシステム構築を創意工夫されたい。

◆活動状況の点検・評価について

- ・教育委員会活動状況の点検・評価については適正に成されている。今後の方向性としてはPDCAサイクルの一連の検証のもとに事業を進めることが重要であり、教育委員会の機能充実と活性化を図っていただきたい。
- ・また、教育現場との風通しを良くして教育委員会の広報・広聴機能の充実に向け取り組んでいただきたい。

◆その他

- ・教育委員の顔を広げる活動として学校現場などを気軽に訪れることができるよう校長会議での事前周知・対応依頼したことに積極的な姿勢を感じる。
- ・また、学校教育課で行っている総合訪問と連動し学校現場で抱える問題の把握や教育委員の意見発信が直接できないものだろうか。

3 教育委員会施策について

<生涯にわたる学習活動を促進する>

◆評価・課題について

- ・「(1) 学ぶ意欲の向上に向けた学習環境の醸成」については、生涯学習センターの利用者数を示しているが、管轄は別かもしれないが地域住民にとって最も身近な地域コミュニティセンターで開催されているセミナーや各講座についての数値が抜け落ちている気がする。連動したデータの集積に心がけるべきではないか。また、東図書館に加え一昨年南図書館の開設に伴い図書館サービスが一層充実した。さらに教育メッセなど情報発信の場、生涯学習、市民活動、青少年の居場所機能を併せ持つ図書館運営についても鋭意推進していただきたい。
- ・「(2) 学校・家庭教育支援の充実」については、指標に放課後子ども教室に関わる延べ地域活動者数があげられているが、さらに出前講座や学習会の開催回数等も含め評価してはどうだろう。

◆今後の方向性について

- ・「(2) 学校・家庭教育支援の充実」については、地域をあげて子どもの育成に関わるという目標はややもすると人数だけが目的化してしまう危険性を伴っており、活動の内容やねらいにも目を向け検討されたい。

<信頼される学校教育を推進する>

◆評価・課題について

- ・児童生徒の基礎的、基本的な知識・技能の取得とこれらを活用する思考力、判断力、表現力等に関連させながら伸ばすことを基本に学力向上に努め、豊かな情操を養う教育改善や特別支援教育の充実につなげていただきたい。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会・地域学校園事業においては社会教育主事有資格者の専門職の力量を発揮できる環境が整うことをお願いしたい。
- ・H24.5 中央教育審議会では「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」審議のまとめの中に「学び続ける教師像」の確立が必要と述べているとおり、こうした「授業力向上プロジェクト」は継続的かつより積極的な推進を期待する。

◆今後の方向性について

- ・「いじめゼロ運動」や「心の教育プロジェクト」を推進していく上で家庭や地域、関係団体との連携をあげているが具体的にどのような団体を指しているかを示すとよいのではないか。

<個性的な市民文化・都市文化を創造する>

◆評価・課題について

- ・生涯学習の箇所と同様に市民が気軽に利用できる文化活動環境としてまず、地域のコミュニティセンター利用のサークル活動なども含め、把握する必要があると思う。
- ・伝統文化の継承などにも注力するとともに宇都宮市の貴重な文化財を適切に保存・継承・活用するため効果的な情報の集約発信を行うことを課題視しているとおり、市民の関心を高めるためのアクションを再考されたい。

◆今後の方向性について

- ・コミュニティセンター運営に関する市民まちづくり部やものづくりに関する経済部などと連携を図ることでより一層効果的な取り組みにならないだろうか。

<生涯にわたるスポーツ活動を促進する>

◆評価・課題について

- ・日頃から楽しめるスポーツの環境整備として学校施設等の利用状況についてのデータは集積されていると思われるが、数値化されたものだけでなく市民からの意見を聞く機会を設ける必要性を感じる。総合型地域スポーツクラブは子どもから大人までが世代を超え多種類のスポーツを楽しむクラブであると同時に青少年の健全育成の場ともなる事業であることから積極的かつ継続的支援をお願いしたい。

◆今後の方向性について

- ・総合型地域スポーツクラブについては補助金のあり方にとどまらず学校と地域との連携や協力体制を拡充させ相互により関係が図れるような仕組みづくりにも注力いただきたい。

<その他>

- ・宇都宮市の市民へのサービスの中には生涯学習や健康に関する事業があり、これらとも連携を図り事業展開することが好ましいと考えられる。こうした組織間の連携をどのようにして行い事業を継続していくかがこれからの事業展開の重要なポイントとなるであろう。

おわりに

社会情勢の変化や教育ニーズの多様化などにより、教育をめぐる様々な課題が顕在化している中、その中核を担う教育委員会におきましては、地域の実態を十分に把握するとともに、将来を展望した教育を充実させることがより一層求められております。

本市におきましては、教育を「人づくり」とし、平成17年度に策定した「宮っこ未来ビジョン」に基づき、子どもからお年寄りまでが本市に愛着と誇りを感じながら、生涯にわたって夢をもち続け、心豊かでたくましく生きることができる人づくりの実現という最大の目標に向かい、本市独自の教育改革を推進してまいりました。

今後さらに、社会総ぐるみによる人づくりを推進していくためには、これまでの本市教育委員会が実施してきた様々な取組をより充実させていくとともに、学校・家庭・地域、さらには企業などが連携し、それぞれの教育力を発揮しながら、一体となって人づくりの機運醸成を図っていく必要があるものと考えております。

平成20年度より実施しております教育委員会の活動状況や教育委員会施策などの点検・評価につきましては、議会への報告や市民への公表を行うことにより、本市教育委員会の取組について多くの市民の皆さまに知っていただくとともに、本市教育行政への御理解、御協力をいただく機会となることを期待しております。

今後とも、この点検・評価の結果を踏まえ、本市の教育を担う責務を十分に認識しながら、常に教育行政の根本に立ち返り、社会情勢や新たな教育ニーズに応じた効果的な施策の展開に努め、新しい宇都宮の未来を切り拓く人づくりを推進してまいります。

参考資料

【平成24年度 教育委員会付議案件等一覧】

◆教育委員会議 審議案件（39件）

回	議案番号	件名	審議年月日
8	第19号	「宇都宮市学校ICT化推進基本計画」の策定について	H24. 4. 20
	第20号	教職員の懲戒処分の内申について	
	第21号	宇都宮市社会教育委員の委嘱について	
	第22号	宇都宮市生涯学習センター運営審議会委員の委嘱について	
	第23号	宇都宮市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	
	第24号	宇都宮市スポーツ推進審議会への諮問について	
9	第25号	宇都宮市就学指導委員会委員の解職及び委嘱について	H24. 5. 21
10	第26号	「宇都宮市立一条中学校改築基本計画」の策定について	H24. 6. 22
	第27号	平成25年度宇都宮市教育委員会組織・定員の方針について	
	第28号	宇都宮市通学区域審議会委員の委嘱について	
	第29号	宇都宮市社会教育委員の委嘱について	
	第30号	宇都宮市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	
	第31号	宇都宮市通学区域審議会への諮問について	
	第32号	宇都宮市指定文化財の指定について	
11	第33号	平成25年度使用宇都宮市立小・中学校教科用図書採択について	H24. 7. 20
12	第34号	宇都宮市視聴覚ライブラリー運営委員会委員の解職及び委嘱について	H24. 7. 27
13	第35号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について	H24. 8. 17
	第36号	教育委員会評価について	
14	第37号	栃木県教育委員会の権限に属する事務の一部の事務処理の特例について	H24. 9. 7
15	第38号	宇都宮市小中学校の通学区域に関する規則の一部改正	H24. 9. 20
	第39号	宇都宮市文化財保護審議委員会委員の委嘱について	
16	第40号	宇都宮市教育委員会教育長の任命について	H24. 10. 1
17	第41号	平成25年度 教育委員会当初予算編成方針について	H24. 10. 26
	第42号	平成25年度 宇都宮市立小中学校教職員定期異動にかかる基本的な考え方について	
	第43号	教職員の懲戒処分の内申について	
18	第44号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について	H24. 11. 22
19	第45号	宇都宮市生涯学習センター条例施行規則の一部改正	H24. 12. 21
	第46号	宇都宮市社会教育委員の解職及び委嘱について	

1	第1号	宇都宮市小中学校の通学区域に関する規則の一部改正	H25. 1. 25
2	第2号	教育委員会に係る議会の議決を経るべき事件の意見の提出について	H25. 2. 15
	第3号	平成25年度教育委員会の組織について	
	第4号	「宮っこ、食べっこ、元気っこプラン(学校教育食育推進行動計画)(案)」の一部改訂について	
3	第5号	教職員の懲戒処分の内申について	H25. 3. 11
	第6号	職員の人事について	
4	第7号	平成25年度小中学校長の人事異動の内申について	H25. 3. 13
5	第8号	宇都宮市教育委員会の組織及び運営に関する規則の一部改正	H25. 3. 22
	第9号	宇都宮市教育委員会職員の職の設置等に関する規則の一部改正	
	第10号	「第2次宇都宮市地域教育推進計画」(案)について	
	第11号	職員の人事について	

◆教育委員会議 付議案件(3件)

回	件名		付議年月日
16	(1)	宇都宮市教育委員会委員長の選任について	H24. 10. 1
	(2)	宇都宮市教育委員会委員長職務代理者の指定について	
	(3)	議席の決定について	

◆教育委員会議 協議案件(7件)

回	協議番号	件名	協議年月日
8	第3号	教育委員会の活動について	H24. 4. 20
9	第4号	「宇都宮市立一条中学校改築基本計画」(案)の策定について	H24. 5. 21
12	第5号	教育委員会評価(自己評価)について	H24. 7. 27
1	第1号	平成24年度小中学校卒業式あいさつ文(案)について	H25. 1. 25
	第2号	「宮っこ、食べっこ、元気っこプラン(宇都宮市学校教育食育推進行動計画)」の一部改訂について	
3	第3号	(仮称)第2次宇都宮市地域教育推進計画(案)について	H25. 3. 11
6	第4号	平成25年度宇都宮市教育行政の方針について	H25. 3. 29

◆教育委員会議 報告案件（81件）

回	報告番号	件名	報告年月日
8	第33号	平成24年度教育委員会運営方針及び主要事業について	H24. 4. 20
	第34号	教育長の権限に属する事務の委任及び事務決裁規程の一部改正について	
	第35号	教育行政相談の内容と対応について	
	第36号	人材育成システムについて	
	第37号	リフレッシュデイの推進について	
	第38号	平成23年度児童虐待相談受付等の状況について	
	第39号	「(仮称)第2次宇都宮市地域教育推進計画」の策定体制等について	
	第40号	市長の権限に属する事務の委任等及び委員会等との間における事務の補助執行に関する規則及び宇都宮市公園条例施行規則の一部改正について	
9	第41号	障害者が利用する場合における公の施設の使用料の免除に関する規則及び宇都宮市体育施設条例施行規則の一部改正について	H24. 5. 21
	第42号	教育行政相談の内容と対応について	
	第43号	学校事件・事故について	
	第44号	平成23年度学校給食費滞納対策の結果について	
10	第45号	「(仮称)宇都宮市スポーツ推進計画」の策定体制等について	H24. 6. 22
	第46号	教育行政相談の内容と対応について	
	第47号	平成24年度宇都宮市奨学生の選考結果について	
	第48号	平成24年度「地域学校園事業交付金」の実施状況について	
	第49号	通学路における空間放射線量率の測定について	
12	第50号	平成23年度不登校の状況と学校における不登校対策の取組状況について	H24. 7. 27
	第51号	教育行政相談の内容と対応について	
	第52号	平成24年6月議会の一般質問の概要について	
	第53号	平成24年度長期休業期間における授業実施等について	
	第54号	教職員の事故について	
	第55号	通学路の交通安全確保対策について	
	第56号	シックスクール問題（化学物質過敏症等）に関する実態調査結果について	
	第57号	夜間（土曜）公開講座「教育なう」の実施について	
第58号	学校事件・事故について		

13	第59号	教育行政相談の内容と対応について	H24. 8. 17
	第60号	平成23年度育英事業における滞納対策の結果について	
	第61号	平成24年度宇都宮ジュニア未来議会の概要について	
	第62号	「(仮称) 第2次宇都宮市図書館機能・サービス向上計画」の策定体制等について	
	第63号	本市のいじめ問題への取組について	
	第64号	学校事件・事故について	
15	第65号	教育行政相談の内容と対応について	H24. 9. 20
	第66号	平成24年9月議会一般質問の概要について	
	第67号	隣接校との通学区域弾力化等による平成25年度入学者の募集について	
	第68号	「小中一貫教育と地域学校園」の実施状況について	
15	第69号	一条中学校改築基本設計に係る業務委託契約の締結について	H24. 9. 20
	第70号	学校事件・事故について	
	第71号	平成24年度「全国学力・学習状況調査」の結果について	
	第72号	「学校教育推進計画」の推進状況について	
	第73号	第7回うつのみや食育フェアについて	
	第74号	平成23年度いじめ, 暴力行為等の状況について	
	第75号	全国規模組織等による被表彰について	
17	第76号	教育行政相談の内容と対応について	H24. 10. 26
	第77号	全国規模組織等による被表彰について	
	第78号	平成25年宇都宮市成人式について	
	第79号	宇都宮市公園条例施行規則の一部改正について	
	第80号	学校事件・事故について	
18	第81号	教育行政相談の内容と対応について	H24. 11. 22
	第82号	平成25年度教育委員会当初予算要求概要について	
	第83号	社会総ぐるみによる人づくりの提言について	
	第84号	「小中一貫教育と地域学校園」の実施に係る私立小中学校等との連携について	
	第85号	平成24年度学校給食表彰(文部科学大臣表彰)及び平成24年度栃木県学校給食優良学校等表彰(栃木県教育長表彰)について	
	第86号	元気っ子健康体力チェック集計結果について	
19	第87号	教育行政相談の内容と対応について	H24. 12. 21
	第88号	学校事件・事故について	
	第89号	通学路の安全確保について	

19	第90号	空間放射線量及び給食の放射性物質検査体制の見直しについて	H24. 12. 21
	第91号	図書館カレンダー等への広告募集について	
	第92号	平成24年12月議会一般質問の概要について	
1	第1号	教育行政相談の内容と対応について	H25. 1. 25
	第2号	平成24年度全国学校給食週間の取組について	
2	第3号	教育行政相談の内容と対応について	H25. 2. 15
	第4号	宮っ子表彰及び義務教育皆勤賞表彰について	
	第5号	平成24年度奨学金及び入学一時金貸付状況について	
	第6号	平成24年度「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートの結果について	
	第7号	お弁当コンクール大賞作品の商品化事業及び全国大会の結果について	
	第8号	第7回「全国学校給食甲子園」の結果について	
3	第9号	学校事件・事故について	H25. 3. 11
	第10号	学校事件・事故について	
4	第11号	教育行政相談の内容と対応について	H25. 3. 22
	第12号	平成25年度3月議会一般質問の概要について	
	第13号	「第5回うつのみや人づくりフォーラム」及び「第5回うつのみや地域教育メッセ」開催結果について	
	第14号	「小中一貫教育と地域学校園」の実施状況等について	
	第15号	一条中学校改築工事基本設計（案）の概要について	
	第16号	平成24年度宇都宮市「学習内容定着度調査」及び「学習と生活についてのアンケート」の結果概要と今後の取組について	
	第17号	「うつのみや授業の達人」表彰制度 表彰者の報告について	
	第18号	「防災教育の手引き」について	
	第19号	文化会館整備基本計画の策定について	
	第20号	宇都宮エスペール賞について	
	第21号	教育委員会重点事業年度結果報告について	

【教育委員会施策ごとの施策指標評価一覧】

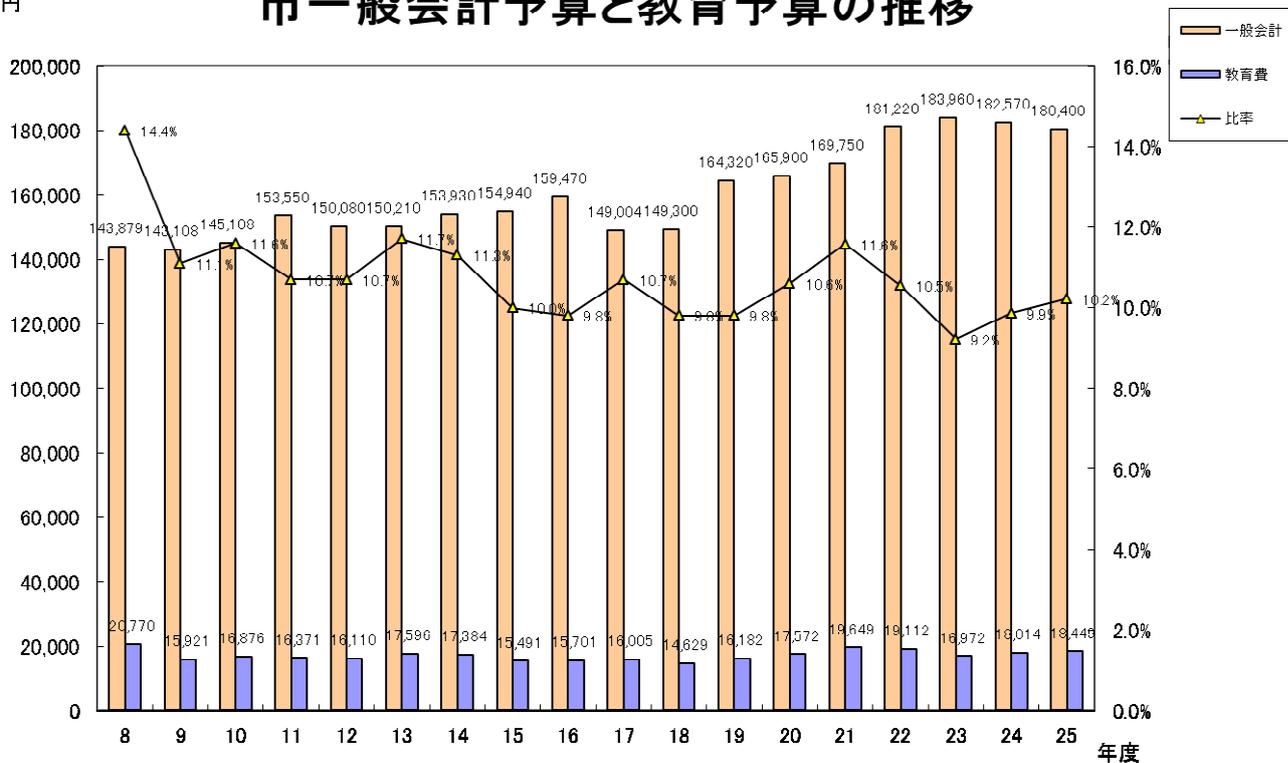
施策名	施策指標	平成24年度			進捗状況		
		目標	実績	達成度		評価(※)	
1 生涯にわたる学習活動を促進する	(1) 学ぶ意欲の向上に向けた学習環境の醸成	①全生涯学習センターで開催される講座の延べ参加者数	23,763人	21,747人	91.52%	A	順調
	(2) 学校・家庭教育支援の充実	①放課後子ども教室に係る延べ地域活動者数	17,016人	16,907人	99.36%	A	順調
	(3) 学んだ成果を活かす仕組みの構築	①人材バンクの登録者数	370人	306人	82.70%	B	概ね順調
2 信頼される学校教育を推進する	(1) 学力向上の推進	①学習内容定着度調査における正答率80%以上(中学校3年生の国語)	71.00%	73.10%	103.10%	A	
		②学習内容定着度調査における正答率50%未満(中学校3年生の国語)	4.00%	5.90%	67.80%	C	
		③学習内容定着度調査における正答率80%以上(中学校3年生の数学)	72.90%	70.00%	96.00%	A	
		④学習内容定着度調査における正答率50%未満(中学校3年生の数学)	11.70%	14.10%	83.00%	B	
		⑤学習内容定着度調査における正答率80%以上(中学校3年生の英語)	68.70%	61.70%	89.80%	B	
		⑥学習内容定着度調査における正答率50%未満(中学校3年生の英語)	10.30%	10.80%	95.40%	A	
		①いじめの解消率	100.00%	96.90%	96.90%	A	
(2) 豊かな人間性と健やかなからだの育成	②新体力テスト総合評価A段階の割合(中学3年生)	22.10%	25.10%	113.60%	A		
	①「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実に努めている。」と回答した保護者・地域住民の割合	89.20%	93.30%	104.60%	A		
	①耐震化率(学校校舎・体育館)	85.00%	85.00%	100.00%	A		
	①個別の支援計画を活用して、特別支援教育を実践している学校の割合	98.00%	97.80%	99.80%	A		
	①教員マイスター制度(受講者)とうつのみや授業の達人(表彰者)の対象者数	42人	41人	97.62%	A		
	①幼稚園・保育園に入園していない児童(3～5歳)の割合	5.00%	5.00%	100.00%	A		
	①市内8大学の公開講座数	75講座	73講座	97.33%	A		
②奨学金貸付基準を満たす希望者のうち貸与を受けた者の割合	100.00%	100.00%	100.00%	A			
3 個性的な市民文化・都市文化を創造する	(1) 文化活動環境の充実	①市民芸術祭、ジュニア芸術祭の参加者数	134,000人	129,300人	96.49%	A	
		②文化会館自主事業参加者数	94,200人	92,678人	98.38%	A	
		①文化財保存団体数	52団体	52団体	100.00%	A	
(2) 文化資源の保存、継承、活用	②文化財活用施設利用者数	121,370人	149,388人	123.08%	A		
	③個性ある文化資源活用イベント入込客数	157,250人	166,892人	106.13%	A		
4 生涯にわたるスポーツ活動を促進する	(1) スポーツ活動環境の充実	①20歳以上の市民の週1回以上のスポーツ活動実施率	49.30%	49.20%	99.80%	A	
		②地域スポーツクラブ数	7団体	6団体	85.71%	B	
(2) スポーツを支える人材の育成、団体の活性化	①スポーツ指導者研修の受講者数	700人	706人	100.86%	A		
	②スポーツ教室の参加者数	41,000人	40,919人	99.80%	A		

(※) 評価の考え方 A：達成度90%以上 B：達成度70%～90%未満 C：達成度70%未満

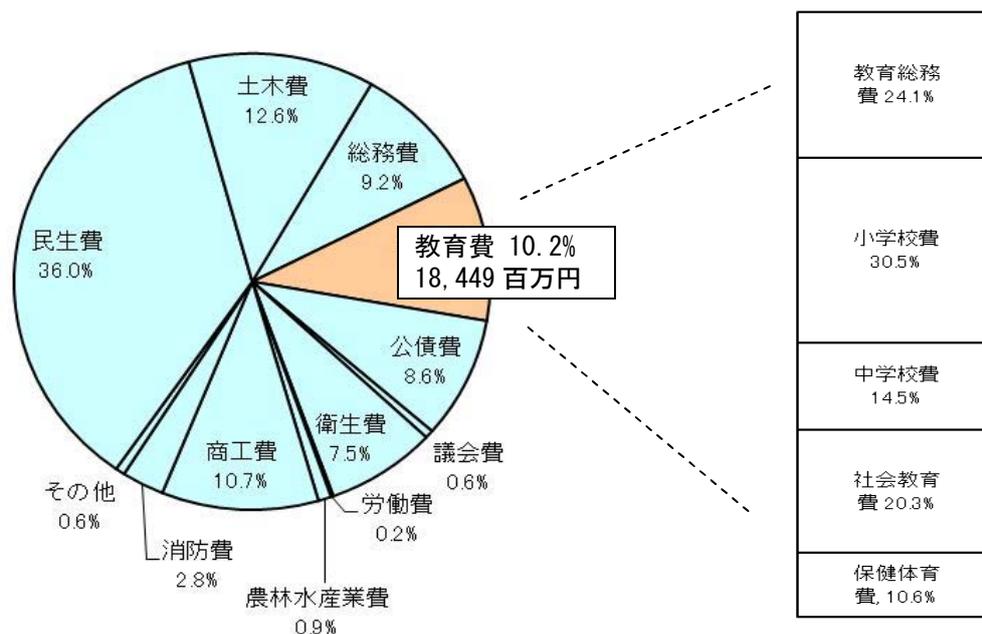
【一般会計予算と教育予算】

百万円

市一般会計予算と教育予算の推移



市一般会計予算と教育予算の内訳



平成25年度宇都宮市教育委員会点検・評価報告書

発行年月 平成25年8月

発行 〒320-8540

宇都宮市旭1丁目1番5号

宇都宮市教育委員会事務局（教育企画課）

電話 028-632-2707

FAX 028-639-7159

Eメール u4612@city.utsunomiya.tochigi.jp